

様式第2号（第7条関係）

富士見市議会意見交換会実施報告書

実施主体	文教福祉常任委員会	
テーマ	教職員の働く環境について	
目的	富士見市の小中学校の教職員を招き、日々の勤務環境と働き方についての意見や体験、やりがいや課題について意見交換し、そこから得た見識を市政に活用するため。	
実施日時	令和6年6月21日（金）午後3時から午後4時30分まで 令和6年6月24日（月）午後3時から午後4時30分まで	
実施場所	富士見市役所1階 全員協議会室、第1委員会室及び第2委員会室	
対象者	人数	6月21日 小学校教職員 11人 6月24日 中学校教職員 6人
	概要	市内小中学校の教職員
参加議員	委員長 加賀 奈々恵 副委員長 篠原 通裕 委員 木村 邦憲、尾崎 孝好、斉藤 隆浩、 深瀬 優子、勝山 祥	
実 施 内 容		
<p>◆小学校教職員 令和6年6月21日（金）</p> <p>1 進行</p> <p>(1) 開会</p> <p>(2) 議長あいさつ</p> <p>(3) 委員長あいさつ</p> <p>(4) 委員・参加者自己紹介</p> <p>(5) 意見交換</p> <p>(6) グループ発表</p> <p>(7) 閉会</p> <p>※閉会后、アンケート記入・回収</p> <p>司会者：加賀委員長、篠原副委員長 記録者：深瀬委員、尾崎委員</p>		

◆中学校教職員 令和6年6月24日（月）

1 進行

- (1) 開会
- (2) 議長あいさつ
- (3) 委員長あいさつ
- (4) 委員・参加者自己紹介
- (5) 意見交換
- (6) 発表
- (7) 閉会

※閉会后、アンケート記入・回収

司会者：加賀委員長、篠原副委員長

記録者：木村委員

2 意見の概要

日々の働き方について、やりがいと課題、さらに課題を改善するために必要と考える策を伺った。

以下はその発言の一部抜粋である。

◆小学校教職員 令和6年6月21日（金）

やりがい

- 生徒の成長を直接見ることができる
 - ・生徒が知識やスキルを身につけ、成長していく過程を目の当たりにできる。
- 良い影響を与えられる関係が築ける
 - ・生徒との深い関係を築き、その後の生徒の人生に良い影響を与えられる。
- 学び続けられる環境がある
 - ・教えることを通じて自分も学び続けることができる。
- チームとしての協力
 - ・他の教職員と協力し、チームで目標に向かって努力できる。

働き方に関する課題

- 長時間労働が多いと感じている。
- 新任教員の過大な責任とプレッシャーがあると感じている。
 - ・新任教員が担任として保護者との連絡を主導するなど、プレッシャーの原因となる場合がある。
- 多様な生徒に合わせた教育のリソース不足として、特別支援が必要な生徒や不登校児童生徒に対して、適切なサポートを提供するための人材が不足していると感じている。

- 教員が急に休んだ際の代替教員の確保が難しく、他の教員の空き時間が削られている。
- 若手教員への責任の集中があるのではないかと思う。例えば、役割や責任が特に30代の一部の教員に集中していると感じている。

改善策の提案

- 教員のサポート強化が必要ではないか。
 - ・副担任制度の導入：新任教員の負担軽減を目的として副担任制度を設けることが有効ではないか。
 - ・支援員の増員：教室での支援を担うスタッフを増やし、日常的な教育活動の支援を強化する必要があると考える。
 - ・学年主任が担任を持たない制度も有効ではないか。
 - ・校舎の清掃を外注：清掃業務を外部業者に委託することで、教員の負担も軽減できるのではないか。
 - ・ICT支援の拡充：ICT支援員の勤務日数を増やすことで、ICTの更なる活用を促進できるのではないか。
 - ・代替教員の確保：代替教員の体制を整備することで、急な休みにも対応できるのではないか。
 - ・学務システムの導入拡大：学務管理システム「C4th」を教室レベルで利用可能にし、教務作業の効率化を図ることができると考える。
- スクールサポートスタッフ（SSS）の増員
 - ・教員の授業準備や日々の業務サポートを担うスタッフを増やすことで、教員の負担が軽減される。
- 教員の確保（加配含む）
- 小中連携の推進

◆中学校教職員 令和6年6月24日（月）

やりがい

- 生徒の成長を直接見ることができる喜び
 - ・生徒が学び、成長する過程を目の当たりにし、その変化を感じることができる。
- 様々な背景や価値観を持つ生徒・保護者との関係性の構築
 - ・様々な背景や価値観を持つ生徒や保護者たちと接することが学びになる。
- 職業としての達成感
 - ・教育目標を達成し、教室での成功を積み重ねる。
- チームとしての協力
 - ・他の教職員と協力し、チームで目標に向かって努力できる。

働き方に関する課題

○多忙さとその原因

- ・授業準備に時間がかかると感じている。特に保健体育について前日に準備ができないなど、授業ごとに差異がある。
- ・担任業務や不登校生徒のフォローアップが多忙の原因となっていると感じる。
- ・放課後の部活動指導や行事の準備。

○ICT導入に伴う課題

- ・端末の管理の難しさや破損、紛失の増加。
- ・ICT導入が教員の仕事を増加させているとも感じる。
- ・特定の教科では、ICTを活用することが難しいと感じる。

○保護者との連絡に関する課題

- ・学校現場と保護者との意見の調整が難しいと感じる。また、教育に対して、保護者は多様な認識を持っているため、対応が難しいと感じることもある。

○業務改善に向けた課題

- ・行事を短縮した際に、教職員や生徒から「もっとやりたかった」との声が上がる場合など、教育現場のモチベーションに差異があり、課題があると感じる。

改善策の提案

○現状は学校にある固定電話に連絡手段が限られているため、何らかの連絡ツールを増やすなど、児童生徒や保護者とのコミュニケーションを効率化する必要があるのではないか。

○保護者とのコミュニケーションや防犯対策のため、学校の電話にディスプレイ表示を導入してほしい。

○教員の人員を増やしてほしい。

○教員の働き方の実情に関して知られていないため、情報発信を積極的に行なってほしい。

3 まとめ

富士見市における教職員の働き方に関しては、実際の状況を詳細に調査しながら検討を進めることが必要である。以下に、小中学校で共通していた、やりがいと直面している課題、そしてそれに対して提案いただいた改善策の案について述べる。

(1) 教育者としてのやりがい

生徒の成長を直接見て、教育を通じて生徒に良い影響を与えることで、大きな喜びと達成感を感じている。

(2) 課題の原因

主な課題には、多忙な業務、ICTの導入に伴う問題、保護者とのコミュニケーションの難しさがあると考える教員の方が多い。

(3) 改善策の案

教員のサポート体制を強化し、ICTツールを適切に活用すること、そして職場の環境を改善することを求める教員の方が多い。

結論として、富士見市は教育の質を向上させるために、教職員の働き方について、現場の声を聴きながら継続的に改善策を模索する必要がある。

さらに、働き方改革においては、意見交換会でも発言があったように、生徒、保護者、教員の三者が不利益を被ることなく、全ての関係者にとって最良の状況を目指して進めていくことが望まれる。

委員会としても、今後先進事例の研究を進めていきたい。

令和6年9月12日

富士見市議会議長 様

上記のとおり意見交換会を実施したので、富士見市議会意見交換会実施要綱第7条第1項の規定に基づき報告します。

実施主体の代表者氏名 加賀 奈々恵